

第 1 回「新交通システム検討委員会」
(H20. 2. 21) 資料より抜粋

(1) 新交通システム検討委員会の設置にあたって

【はじめに】

宇都宮市と栃木県は、これまで宇都宮地域の東西方向の基幹となる公共交通軸を形成するべく、LRTを中心として種々の検討を進めてきました。この間、各界の専門家や交通事業者の皆様からの御指導・御助言ほか、数多くの市民・県民から御意見や御提言等をいただくなどしながら、今後重点的に検討しなければならない課題を明らかにしてきました。

本委員会においては、これら課題の解決・整理に向け、より技術的かつ専門的な観点から議論・検討をお願いするものです。

以下に、LRT導入検討に係るこれまでの経過等を総括するとともに、本市の基本認識、さらには本委員会における論点等を整理します。

【LRTで何をを目指すのか】

- 宇都宮市は高度経済成長期、JR宇都宮駅西側では、県都・商業都市として、また、駅東側は工業団地を中心として「まち」が形成されましたが、その後モータリゼーションの進展により、通勤・物流等においてクルマの利用が進み、クルマ中心の「まち」が形成されました。
- 近年では、外環状道路が全線開通するとともに、商業施設や公益施設が郊外に移転するなど、クルマの利用を前提とした「まち」の形成に拍車がかかり、結果として人口密度の低い拡散型のまちが形成されてきました。
- しかし、少子・高齢化が一層進行し、人口減少社会に移行する中、このままの「まち」の構造、過度にクルマに依存した「まち」に未来はあるのか非常な危惧を覚えます。
- 本市が将来に渡って持続可能な都市として発展していくためには、これらの問題に対応し、「まち」の構造をコンパクト化していくこと、過度にクルマに依存した「まち」から公共交通優先の「まち」に切り替えていくことが何より重要であると考えます。
- このことから本市では、30年、50年先を見据えた都市構造の転換に向け、地域の独自性と特色を活かしながら「拠点化」を図るとともに、その拠点を公共交通と道路によりネットワーク化する「ネットワーク型コンパクトシティ（連携・集約型都市）」の形成を現在策定中の「第5次宇都宮市総合計画」の中で、まちづくりの目標とし、その実現に向け取り組んでいきます。
- 誰もがどこからでも円滑に、安全に外出でき、まちを歩ける、そして人々の賑わいと活気に溢れた、魅力あるまちを創っていきたいと考えています。
- そのためには、公共交通ネットワークを形成していくことが重要であり、環境にやさしい、シームレスで高齢者にやさしい、また定時性が確保されるなど、様々なまちの魅力向上が期待できることから、その基幹としてLRTの導入を目指しているところです。
- LRTの導入にあわせて公共交通ネットワークが形成され、「人々の生活を変える」、「まちを変える」、この実現に向け、本市はLRTの導入検討に取り組んでいます。

【LRT導入検討に係る経過】

LRT導入検討に係る経過の中で、主なものを以下に整理します。

○平成13～14年度（新交通システム導入基本計画策定調査委員会を開催）

検討項目①まちづくりの観点，②事業計画と概算事業費，③需要予測と採算分析，
④事業・運営手法 等

結果 ・当時の法令や国の補助制度等を前提とすると，運営主体自らが自立的な運営を行うのは困難であること，
・運営主体として民間と公共が協調した「第三セクター」方式が望ましいこと 等

課題 ①初期投資の圧縮と段階的整備，②法令，諸制度の運用改善，③まちづくりを含めた総合的な交通施策 等

○平成17～18年度（新交通システム導入課題検討委員会を開催）

法令や国の補助制度の改正・拡充等を踏まえた検討を実施

検討項目①総合的な交通施策の展開，②まちづくりの視点，③事業・運営手法，④市民との連携 等

整理された課題 ①交通結節点の規模や配置計画の具体化等，②今後のまちづくりの方向性の明確化等，③「公設・民営」の整備と行政負担を前提としない運営形態の詳細な検討等，④これまで寄せられた疑問・不安・意見等に対応した説明内容の拡充等

これらの課題を踏まえ，以下の事項を検討します。

【今後の重点的な検討事項】

○整備・運営のあり方と適切な役割分担

「公設・民営」方式を前提として，整備主体（公共）と運営主体の役割分担や自立的経営が可能な運営形態など，整備運営の具体的な枠組みを検討します。

○市民・県民の生活に根ざした身近で使いやすい交通施設のあり方

「便利で使いやすいこと」を念頭におきながら，人の動線に配慮したLRTの停留場や各種交通機関との乗り継ぎ施設の配置・構造等を検討します。

○バスや鉄道との連携

LRTとバスや鉄道とを連携した便利で使いやすい公共交通ネットワークを構築するため，乗り継ぎ料金や乗り継ぎ時間，待ち時間の設定等を検討します。

なお，公共交通ネットワークについては，公共交通事業者との緊密な連携を図りながら別に設置した「宇都宮市都市・地域交通戦略策定協議会」で検討します。

○市民・県民の理解促進と合意形成

LRTを導入するにあたっては、市民・県民のご理解は欠かすことができません。このため、今後委員会を通じて、市民・県民の方々のご意見・ご批判に対し、出来る限りわかりやすく説明をまいります。

また、本委員会の検討の経過や議論の内容等も活用しながら、今後、市内各地域において意見交換などを実施し、市民・県民の理解促進と合意形成に努めてまいります。

【委員会でお願する議論の論点】

本委員会においては、上記のうち、特に「整備・運営のあり方と適切な役割分担」と「市民・県民の生活に根ざした身近で使いやすい交通施設のあり方」を中心として議論、検討を進めていきます。

【論点①】整備・運営のあり方と適切な役割分担

- ・公共による整備と民間活用による運営の具体的な枠組み
- ・整備主体（公共）と運営主体の役割分担
- ・宇都宮地域に適合し、自立的経営が可能な運営形態
- ・民間事業者が参画し得る事業スキーム

【論点②】市民・県民の生活に根ざした身近で使いやすい交通施設のあり方

- ・停留場等、各種施設の配置・構造等基本的な考え方
- ・乗り継ぎ導線や使い勝手のよさ等を重視した各種乗り継ぎ施設の配置、構造、具体的な整備イメージ

【検討組織の位置付け】

○宇都宮市都市・地域交通戦略策定協議会

宇都宮市の目指すまちづくり実現のための将来交通ネットワークのビジョンを策定するとともに、そのネットワーク構築に向けた取り組みを立案する。

○新交通システム検討委員会

宇都宮地域の東西軸を担う公共交通をLRTとした場合の実現性・成立性を見極めるための検討を実施する。

○バスシステム検討委員会

宇都宮市における公共交通の現状と課題を整理したうえで、東西軸を担う公共交通をバスとした場合の施策とその利便化策について検討を実施する。

